

## 祝 茶山ポエム絵画展三〇回

## 茶山ポエムを各世代に届けたい

今年(二〇二二年)は茶山ポエム絵画展が始まって30年(三〇周年)という節目を迎えました。

菅茶山顕彰会は30年記念事業として、記念誌の発行など茶山ポエム絵画をより多くの人に知ってもらう方策に取り組んでいます。特に記念誌は、絵画展の歴史と現状を記録に残し、関係する多くの方々の参考にしていただきたいと考えています。

歴代の顕彰会会報を紐解くと、第5号(一九九二年発行)に『まんが神辺の歴史』の著者中山善照氏が「茶山の詩を自分で楽しむだけではないけない。子供たちに伝えてほしい」「子供たちのために茶山の詩を現代語訳してみよう」と提案されることが絵画展の嚆矢であると考えられます。

第6号になると、「茶山ポエムの絵を描こう」茶山詩絵画展Ⅱ」の記事があり、故三宅真一郎氏が「茶山ポエム イマジネーション・パーティー」の記事の中で、「子供たちに茶山を親しんでもらうには、どうしたらいいだろうか、初めての試みとしては、茶山先生の詩をイメージした絵を描いてもらって、展覧会をしようということになった。」と書いています。ここに絵画展の始まりの熱気が看取られます。

また当初は、行政や学校と地元有志が「ポエム絵画展実行委員会」をつくり連携して、より良いものにしてきたことも現在に繋がったと考えられます。立ち上げから10年間実行委員会の代表として絵画展全般に尽力された本会副会長故岩川千年氏は退任あいさつの中で「ポエム絵画には子どもの夢(イメージ)がある。夢を育てる絵画展でありたい」(会報

17号)と述べています。

この絵画展の評判と継続は、子ども達の創作力を審査する審査委員の支えがあつてのことです。スタートから23年間審査いただいた穂稚輝雄先生と途中3年間審査代行いただいた長谷川樹先生を始め、第24回以降審査いただいた神辺美術協会の皆様に深謝申し上げます。

「絵画展十周年特集号」(会報第13号)には、「廉塾ポエム祭」「菅茶山先生の漢詩を歌う」「絵画展十年のあゆみ」など関係記事が満載され、茶山ポエムをキーとした行事の広がりを感じられます。

20年後の第23号には故高橋孝一会長が巻頭言「茶山ポエム絵画展回顧」で本顕彰会の最大の事業であり子どもの文化であると記し、第24号には上泰二氏が「茶山ポエム絵画展二十年の軌跡」を寄稿し、20年間を総括しています。

スタート時から菅茶山顕彰会と菅茶山記念館とは両者の活動分野を生かした共催関係が続いています。第21回絵画展からは菅茶山記念館が主催団体として絵画展の募集から絵画展までを主担当することになり代わりました。菅茶山顕彰会は共催団体として絵画展開催をサポートする一方、顕彰会主催行事として、各地各場所で開催し茶山ポエム絵画をより多くの人に観てもらおう活動を続けてきました。

コロナ禍中の二〇二二年度の応募作品総数は、三二〇〇点を超えるハイレベルであり、作品評価も高いものでした。絵画展が地域の行事として定着して、多くの方に参加・協力いただいていると感じられ心強い次第です。

しかし、30年の間には、少子高齢化が進み、社会状況、教育環境も大きく変貌しており、今を考え今後につなぐことが大事であります。

学校の先生方は多忙といわれ、子どもたちはデジタル化の渦中にあり、以前のように茶山ポエムを深く理解し、そのイメージを絵に描くという時間は短くなっているのではないだろうか。それを少しでもカバーするために、茶山ポエムの参考資料やデータや学校や保護者などに提供することが大切と考えています。

音楽家奥野純子氏は菅茶山の漢詩を意識した歌曲「ふるさと中条」を創作し、長年歌い続けておられます。また平成28年故三宅真一郎氏が代表の「茶山ポエム神辺創成の会」は「茶山ポエム ART&MUSIC シンクル」を募集し「大人の茶山ポエム」に挑戦されました。「大人のポエム絵画」「茶山詩歌曲」など茶山詩をキーとした詩・絵画・音楽などの創作が世代を超えて広まることに期待します。

一方、絵画展を運営するわれわれも関係者間の連携を深め、活動内容を常に見直すことが大切で、当然ながら当事者が茶山ポエム・菅茶山について理解を深めることも大事でしょう。

二〇二二年度茶山ポエム絵画展の授与式が二〇二三年1月7日に行われ、これをスタートに作品展展示が始まりました。第30回記念にふさわしい作品に恵まれ、多くの方々に鑑賞いただいています。引き続き顕彰会主催の移動絵画展も精力的に開催したいと計画しています。

茶山ポエム絵画展が、これからも子ども達に自然・風物への関心を高め、創造力を育てる教材なることを期待し、それがさらに絵を見る大人たちに茶山のことを届けることにもなると信じています。どうか読者各位の引続きのご支援をお願いいたします。

(菅茶山顕彰会会長 藤田 卓三)